

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100499		
法人名	メディカル・ケア・サービス福島株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福島桜木町 1F		
所在地	福島県福島市桜木町13-30		
自己評価作成日	平成28年7月31日	評価結果市町村受理日	平成29年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホームは、全国各地に展開しており、法人の運営体制を活用し事業運営をしております。
 運営推進会議の実施、入居者の状況、事故報告などの説明、家族代表、民生委員、地域の方々との連携、地域密着を重視しております。
 認知症サポーター養成講座、タクティル体験会を実施し、地域の方々への認知症の理解を広めております。
 家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活をおくって頂けるように、認知症のご利用者様おひとり、おひとりに寄り添った介護を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 法人は全国に介護事業所を展開しており、全事業所が情報の共有をして質の高いサービスの提供をしている。事業所も法人のバックアップのもと開設2年を経過したところであるが、円滑に運営が行われている。
 2 管理者を中心に全職員が仕事に対する意識が高く、利用者本位の支援に努めている。また、職員間のコミュニケーションが円滑に図られており、職員の笑顔と生き生きとした対応に利用者の表情も明るく穏やかな生活を楽しんでいる。
 3 事業所では紅葉狩りドライブ・信夫山ピクニック・茶屋沼公園ドライブ・お花見・バラ園観覧等の外出支援を数多く実施している。さらに食材の買い出しや近隣商店での買い物や散歩など利用者の希望に添って日常的に外出支援がなされており、利用者の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継時に企業スローガンを唱和し、全員共有・実践をしている。事業所理念を作成するため、ユニットリーダーと共に話し合いを行っている。	「地域の人々の触れ合いや繋がりを」表記した法人理念及び事業所理念を事務室に掲示し、職員ミーティング時に唱和するなど全職員で共有している。理念は利用者個々への毎日のサービスに留意しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃作業参加やボランティアの方々がイベントに来て下さったり交流をしている。	町内会に加入しており、地域の清掃活動や地域の祭り等へ利用者とともに参加している。また、事業所行事の「夏祭りふれあい集い」には地域の方々の参加もあり、日常的に交流している。職場体験として大学生のインターシップや地域のボランティアも数多く受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	営業活動を通じ外部へ発信を行っている。また、認知症サポーター養成講座やタクティール体験会を実施し、認知症の理解を深める活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回のペースで会議を行い意見交換を行っている。また、困難事例等、地域の方や地域包括支援センターの方々から広く意見を求め、運営に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催しており、委員は町内会長、民生委員、地域包括センター職員、消防団長、家族等で組織されている。内容は事業所の状況・行事・外部評価・事故・ヒヤリハットの報告等となっており、委員から様々な意見や提言があり、事業所運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会を通じた連携、長寿福祉課へ質問や相談等の問合せを行っている。	行政の担当者とは事業所状況の報告や介護保険等に係る様々な相談を行うなど、日常的に連携を図り、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修も実施済で全員理解し取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」については、全職員を対象に定期的に研修を行っている。「言葉による拘束」についても、どのような声掛けが拘束になるかについて職員間で話し合い、注意し合っている。なお、日中、玄関施錠せず見守りで対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修も実施済で全員理解している。職員同士も共有して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の利用を検討している方がいらっしゃれば、行政と連携し、スムーズに利用開始できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度連絡させて頂いている。面会時個人記録を見て頂いている。質問、疑問のある際は納得頂けるまで十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施し、意見要望を反映させている。また、家族会議において生の声を聞かせて頂き反映させている。	家族会の開催時や家族の面会時には積極的に声掛けを行い家族の意向や要望を聴取している。これらの意見や要望は、「ユニット会議」等で検討し、事業所運営に反映している。年1回、法人が家族に対し無記名アンケート調査を行なうなど、利用者や家族の意見を出しやすくする機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて皆と共有し反映させている。また、年1回法人にて職員アンケートを実施し、意見や提案を聞く機会を持っている。	職員の意見や要望の聴取には管理者とのヒアリングやミーティングの他、職員アンケート等で把握し事業所運営に反映させている。事業所内に「えがおBOX」(苦情箱の反対のもの)を設置し、各職員が把握した利用者の微笑ましいしぐさや体験談等、気づいた点を記入して全員で情報の共有をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や、連休、プライベートの時間も安心して働いて頂ける様にしている。法人では、就業規則の見直しを行い、働きやすい環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の実施や資格取得の勉強会など、レベルアップを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や研修会などに参加し、交流を図り、お互いに良い点を取り入れる等サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に実態調査を行い、聞き取りにてケアプランに反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査にてご家族様より聞き取りさせていただきその後の関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に聞き取りしケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けなどでコミュニケーションを取り関係性も築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度連絡させて頂いている。また、面会時個人記録を見て頂きお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会にいらっしゃった場合などご本人との時間を大切にしている。	訪問理美容を受け入れており、新しい馴染みの関係ができています。利用者が以前住んでいた町内会長が地域の情報誌を持って訪れたり、友人の訪問もあり、これまでの馴染み関係を継続している。また、家族と共に墓参りや旅行を楽しんでいる利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝いや会話、イベントなど皆さんと一緒に参加して頂いてかわりを持って頂いてる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご入居者様へのお見舞いに行くことで、ご入居者様の状態やご家族様のお話が聴くことが出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながらその中で会話等を通じ把握に努めている。	利用時まで利用者の生活歴や家族の希望等を細かに把握することに努めている。職員は日々の会話や支援の中で利用者の要望やケアの中から思いを聞き取り、業務日誌や連絡ノートに記載し、全職員が情報を共有して日々の支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基にスタッフ共有し合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際にケアを行う事で把握している。また、記録等でも把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー中心に皆で話しあい、ケアプランに反映させている。	事業所ではセンター方式を使用し、利用者・家族の意向・本人の生活状況等のアセスメントを行い、1か月間の暫定プランを作成している。入居後の経過を全職員で観察しながらモニタリングを行い、「ユニット会議」で検討し、その後の3か月間の見直しをしている。利用者の状況が急変した場合には随時適切に見直すなど利用者の現状に合った計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・情報交換で共有しケアプランに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフも常に柔軟性のある対応に努め、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元地域の商店、施設等を利用し暮らしを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のもと、定期的にかかりつけ医の受診をされ、適切な医療をうけられている。	かかりつけ医の受診を支援しており受診には家族対応を基本としているが、緊急時には職員が付き添う場合もある。受診結果について、家族と電話などで情報共有を図っている。利用者状況によって医師に本人の状況を連絡票で伝え、診断結果等を連絡票余白に記入してもらうことで医療との連携を図っている。また、利用者によってはかかりつけ医の往診も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一回の訪問看護師による受診と日ごろから連絡の取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者はその都度情報を交換し早期退院に向け取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの時の研修も行い、職員共有し取り組んでいる。	「重度化した場合の対応にかかる指針」及び「看取り介護にかかる指針」は策定されている。入居時に事業所としてできる事や看取り指針を説明し同意書を取り交わしている。まだ開所2年で看取りの経験はないが、協力医や訪問看護等の協力を得ながら看取りに向けた体制作りを進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルに基づき職員は訓練を行って身に付けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防組織に基づき体制を築いている。	消防署立会いの総合防災訓練を年2回実施している。事業所独自では通報訓練、伝達訓練、防災用品等の点検等を実施している。また、前職が消防署員だった職員を中心にあらゆる災害の対応について検討しているところである。非常時の飲料水・おかゆ・缶詰等非常食を備蓄するほか停電時に備え、カセットコンロ・懐中電灯・石油ストーブ等も備えている。	多様な災害を想定し、全職員が利用者を安全に適切に誘導できるように避難訓練を数多く実施されることが望まれる。また、年間を通して全職員が避難訓練に参加でき、地域住民と協力体制がとれるよう計画されることが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待に繋がらないよう意識しており対応を行っている。	職員研修やミーティング時には利用者を人生の先輩として接するよう意識の共有を図っている。利用者の人格や誇りを尊重し、敬意をもって「さん付け」で声掛けを行うようにしている。利用者個人の資料は施錠可能なキャビネットに保管している。広報発行時の掲載写真は掲載同意を受けた方のみ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通じ、表現や決定の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を大切にし、毎日パターン化した生活にならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類調整のお手伝いをさせて頂きながら自由な身だしなみをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理時の補助を積極的にして頂き、楽しい食事と感じて頂ける様に努めている。	献立は法人の栄養士が作成しているが、事業所では利用者の好みや差し入れ食材等を合わせメニューを変えている。また、利用者も一緒に食材の買い出しに行ったり、調理にも参加しており、職員も一緒に食卓を囲み食事を楽しむ雰囲気となっている。利用者によっては刻み食やおかゆの対応もある。外出支援の際には外食も多く実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表で把握し、支援させて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、入歯の洗浄をさせて頂いて清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを上手く行い、支援させて頂く。トイレでの排泄介助を支援させて頂いている。	トイレでの排泄を目標にしている。利用者個人ごと排泄チェックシートを活用し、時間や仕草などを見計らって声掛けし、トイレに誘導する等排泄自立に向けた支援をしている。また、ポータブルトイレの活用など入居者の残存能力を活かしたり、これまでの生活習慣に合わせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調整やお薬処方の方の調整をさせて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お声掛けをし、お一人おひとりの希望に応じ入浴の支援を実施している。	入浴は利用者の希望により支援している。利用者によっては好みの入浴剤を使ったり、希望があれば毎日入浴することも可能である。入浴拒否者には時刻・担当者・話題などを変え誘導している。入浴できない場合には、シャワー浴・足湯・清拭などで対応している。ドライブ時に温泉の足湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内でのプライベート時間を大切に、支援させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝昼夕とスタッフがしっかり管理し服薬支援させて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除、洗濯物、調理などその時に応じお手伝いさせて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら散歩、ドライブをさせて頂いている。	事業所ではお花見・紅葉ドライブ・ピクニック・バラ園観覧等季節ごとに多くの外出支援をしている。食材の買い出しに利用者を同行したり、また、利用者の希望により、近隣商店での買い物や散歩等には可能な限り対応しており、日常的な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて保管させて頂いており、必要に応じて出し入れさせて頂いている。また、訪問販売等を利用し、自分でお金を使う事の楽しみを感じていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望時はホームの電話を使用し、いつでも使えるようになっている。また、携帯電話をしようされている方もおられ、自由に連絡できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレ・風呂場の表示をさせて頂いており、清掃も常に行い清潔に務めている。	共有空間は机と椅子・ソファコーナーがあり、掃き出し窓でベランダに出られる。壁にはドライブや外出時の写真が飾られ、居心地良い空間となっている。利用者の多くは日中リビングで過ごしている。また、玄関には大きなボードに職員の顔写真が飾られている。照明や温度・湿度の管理が徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・イス共各入居者様同士お好きなレイアウトでお使いいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各入居者様には自由にお好きなものをお持ちいただきプライバシーを大切に生活して頂いている。	居室には、エアコン・換気扇・クローゼットが設置されている。利用者の好みにより、洋室・和室自由に選択できる。テレビや椅子等を持ち込み自由に利用できている。また、思い出の写真や作品が飾られており、利用者それぞれ個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の適性を生かし、出来ることはお手伝いして頂いている。		